

# 九州豪雨災害復興祈念 **Tour of 九州 2023**

## 全国ジュニアステージロードレース 自転車競技部報告

大会日程 令和5年8月17日(木)～20日(日)

大阪代表2チーム参加

大阪ジュニア 茨木工科 塚本・橋本・渡辺 懐風館高 1名 興國高 2名

高体連選抜 茨木工科 岩本 初芝立命館高 2名 興國高 3名

昨年度、団体総合二位の大阪ジュニア（3年生）と、近畿大会の結果を受けて、大阪高体連選抜（1，2年生）の2チームが参加しました。

本校からは、4名が選考され、大阪ジュニアの監督として顧問の堀田が引率しました。

8月17日(木) 午前9時スタートから30秒間隔

第1ステージ 個人タイムトライアル HSRサーキット 2.3km×2周=4.6km

今年は韓国から参加の2チームを加えて19チーム（1チーム6名）で団体総合と個人総合を争います。

第1ステージは一人で4.6kmを走りタイムを競います。速い選手は6分を切るタイムで走ります。上位3人のタイム合計がチーム成績となり、高体連選抜団体総合3位・大阪ジュニア団体総合4位のスタートとなりました。



8月17日(木) 午後3時30分スタート

第2ステージ クリテリウム HSRサーキット 2.3km×20周=46.0km

午後から雷注意報が出される大雨が降りだしましたが、レース開始時間が近づくと小雨に変わり、開始時間を30分繰り下げ、距離を短縮してスタート。

レースは序盤から速い展開で、次々と集団から逃げ出そうとする選手が現われる積極的な展開で、弱い選手はどんどん周回遅れとなって行く。

レース終盤に7名の逃げが決まり、大阪ジュニアの河村が優勝、塚本が10位に入り、大阪ジュニア総合3位、高体連選抜が総合5位で2日目を迎えることになった。



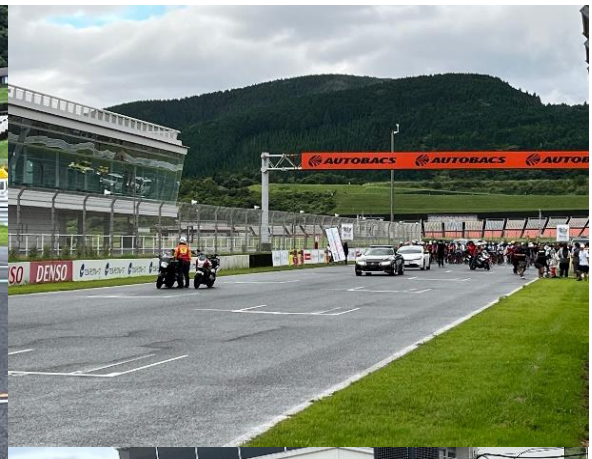
8月18日(金) 午前9時スタート オートポリスサーキット 1周=4.7km  
 第3ステージ ロードレース 4.7km×20周=94.0km

高校生にとっては厳しいアップダウンの激しいサーキットコースで1周目から集団はバラけている。雨のため落車も発生し、レース中盤には走行しているのは60名程度。

更に登りでアタック合戦が繰り広げられ、高体連選抜の岩村が5名の逃げ集団に入り、第2集団14名、第3集団に別れた。レースは後半に入るも第3集団のペースは上がらず、第1集団の逃げ、間に第2集団とバラけた展開のまま残り6周回。第3集団のペースを上げる者がついに現れず、先頭の5名が第3集団に追いつき全員周回遅れ。

個人優勝と団体総合は先頭の5名と第2集団にあわせて3名いるチームのみとなる。

インターハイでも2位入賞している岩村が2位。第2集団のゴールスプリントは松井(インターハイ6位)が制して6位 大阪高体連選抜が総合2位!



8月19日（土） 午前9時スタート （熊本県・人吉町）

第4ステージ クリテリウム 人吉町特設コース 1.7km×20周=34km

クリテリウムのため、団体総合順位に大きな変動はないと思われるが、高体連選抜は総合2位を守るために集団から遅れないこと。大阪ジュニアは河村の個人ポイント賞の獲得に向けて動くことを確認してスタート

レースは最初からハイペースで周回を重ねる。レース中盤、ついに大阪ジュニアの河村、橋本を含む6名の逃げが完成し、橋本は河村のポイント賞のアシストをしながら最終周回へ。ゴールスプリントで河村は4位、橋本は残り1周回を先行し最後は流して8位。チームとして上手く目標を達成するレースができた。



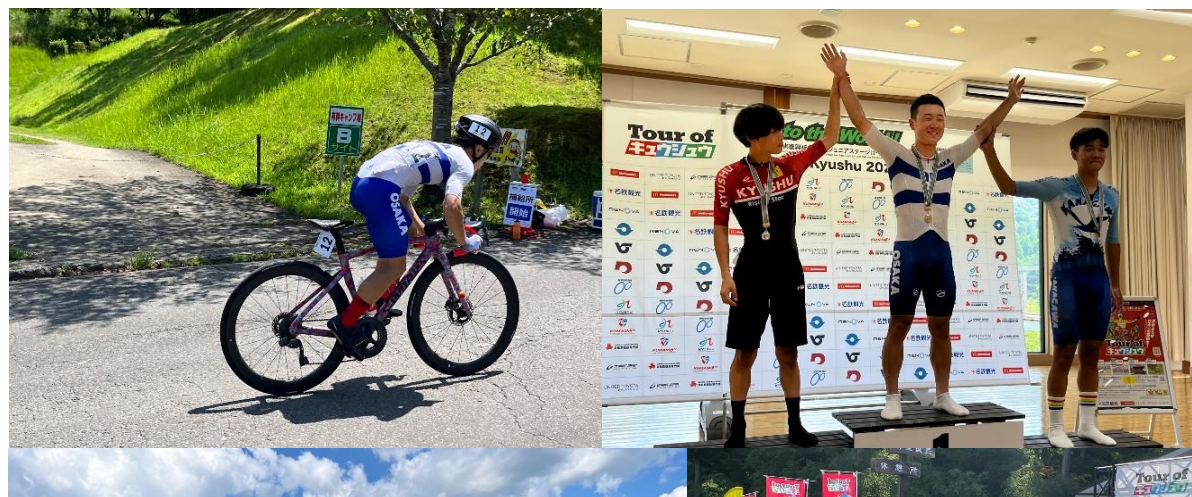
8月20日（日） 午前9時スタート （熊本県・湯前町）

第5ステージ ロードレース 湯前吉町特設コース 7.7km×14周=107.8km

最終戦、チームの作戦として、高体連選抜は団体総合2位の確保。大阪ジュニアは個人入賞を狙うことを確認する。

レースはスタート直後からアタック合戦となり序盤で3名の逃げが成立。しかし、中盤に入り3名のうち2名が集団に戻ることを選択し1名の逃げが残った。ここで塚本が逃げの1名を追い約1周をかけて追いつき2名での逃げに入る。残り5周回で集団から抜け出した4名がジョインし6名の逃げが完成。6名の協調体制は崩れずゴールスプリントへ。塚本が登りのゴールスプリントを制して見事！優勝

大阪チーム12名全員が完走し、大阪としては会心のレースであった。





総合3位の高体連選抜チーム



### おわりに

結果として、3年生チームは昨年の総合成績を下回ったが、第2ステージで河村・第5ステージで塚本（本校）が優勝し、個人総合ポイント賞は河村が獲得した。

本校から出場の渡辺は全ステージ完走、橋本は第4ステージで8位入賞、岩本は5レース中3レースで落車に巻き込まれるも大きなケガなく最終戦では完走。そして何より第5ステージで会心のレース運びを見せ優勝した塚本と本校としては、まずまず満足のいく結果となりました。